

「カ」の篇

第一章

人生 礼らい 讃さん

皆さんごきげんよう、天風であります。

きょうは、そもそも人間とは幸福でありうるものか否かということ、さらに、人というのは健康や運命に対して強いものか、はたまた弱いものかということも考えてみたい。

あえてお尋ねするようですが、皆さんは時にはこういうことをとつくりと考えたことがあるかしらん。

私いつもね、多くの人々の日々にちじちの生活の状態をみるたびに、こうした人生問題を果たして真剣に考えているのかしらんとしみじみ思われる。もつとも、そういう質問がすでに滑稽こっけいだと思われるかもしれませんなあ。

何がなし、もう後から後から追いまくられるような、忙しいといおうか目まぐるしいといおうか、形容もできない日々ひびに生きていると、たとえ時々は考えられても、真剣に取り組んで、とつくりと考えるなんていう余裕なんかありませんよ、と言う人が百人に九十九人でしょうね。

ですから平ひらつたい話が、幸福なんでものは強いていえば一つの想像のようなもので、なかなか思うように我がものにならない。幸福にはなりたい、幸福でありたいと考えながら、幸福なんてことは、そう柵さくの上の物を下におろすようなわけにはいきやしないよと、なかば諦あきら

めてしまったような断定をしている人がどうも多いようですなあ。

またなかには、ただもう幸福になりたい一心で、がむしゃらに働いて、脇目もふらず馬車馬みたいにも、一体全体何のために生きているのかしらんと思うような、気の毒というか少しも余裕のある生活をしてない人がいますねえ。

で、そういう人はそういう人で理屈があつて、「いやあ、こうやっていればいつかは幸福になるだろう」と。ちょうど昔のイロハ歌留多にあつた「犬も歩けば棒に当たる」と、ああいうふうな気持ちなんだ。けれど、幸福はそういうふうな状態で転がり込んでくるものじゃないんだな。

それから、数多くの人のなかには、こういうのがありますよ。「いくら人一倍の働き方や稼ぎ方をしたつて、今まで一向に恵まれた運命の人になれない。学者や識者や宗教家にいろいろ参考になる方法や手段を教わつてやつてみたけども、どうもあの人たちのいうような頼もしい健康も運命もつくれやしないなあ。結局、幸福なんてものは絵にかいた餅で、どう考えてみても確実に自分のものにするなんてことは、不可能じゃないか」。

健康に対しても、「この世の中、油断も隙もできない。ともすれば病的刺激に何としても負けがちな、見ようにより考えようによつたら、憐れな力弱いものが人間だ」というふう

思っている。また、そういう人に限って、もうさんざんいろいろなことをやって、やること
がみんな食い違つて失望ばかりするような結果がきている。

やれ運が悪いの、思うようになれないの、どういふわけでこう苦勞が絶えないのかとかね、
もう運命に対してもしょつちゆうぽやきがち。そうかと思うと、健康に対しては、いやあ血
圧がどうで、いやあどうも糖分が多い、いやあどうも肩がこる、どうも神経痛が治らない。
もつとおかしな奴になると、どうもよく寝られないとか、どうも何やつても面白くないとか
……。

實際の話が、どこが悪いとか、ここが悪いとか、あれがどうだとか、こうだとかつてい
うことばかりで、いいことの方はちつとも言わない。

そりやまあ、そうも思うでしょうよ。生存競争が高波のうねりをつくつて荒れてるよう
に激しいんだからねえ。ですから、一時半時いっぺんはんときも心にくつろぎたい気持ちはある。くつろげ
ない。ただもう何となくあくせくと、「何に一体追つかかれてるんだ?」「何を追つかけて
るんだ?」って聞いたつて、何々とはつきり答えられないほど滅茶めっちゃめちな人生に生きて、
とてもどかな人生などというものは想像するだけで、現実に味わえずに生きてる人が多い
んですよ。

ご自身で考えてごらんさい。一日の仕事を終えて、自分の居間なり、書斎なり、寝間に帰ったときに、「あーあ、きょうも無事に生きててありがたい、またあしたもこんな気持ちで」なんていう尊い気持ちをもった人はなくて、「なんて忙しいんだろう。ほんとうに驚いちゃったな。チェッ」といって、寝床に入ってもおちおち寝られないで、ああもこうも、あれをこう、あれをどうというふうに考えきつてる。

安眠どころか、トロトロッと寝たかと思うと、また目をさまさなければならず、目がさめればまた馬車馬みたいにあくせく、因果なもんだなあと考えている人が多くないかい？人間というものは終生、生きてるかぎりには、生活苦と闘うためにこの世に出てきたもんだとか、もうそれ以上の何ものでもないように断定しちまっているんだ。もつと第二義的な考え方をする人は、なあーに、万物の靈長ばんぶつ れいちやうなんてなんだい、せんじつめれば、動物の一種じゃねえか……。

もつとも、そういう方面からばかり人生を考えていれば、そうとしか考えられない結論がくるかもしれませんなあ。北向いて行けば北に行くし、南向いて行けば南に行くんだから。しかしね、人間とか人生を考える観点の置きどころを誤ってるんだから、それを訂正しなきゃ。ピントが外はずれてるんだもの。

*

いま事業をしてる人に、参考にひとつ話したいことがあるんだがね。

私が若い時に、非常にかわいがられた、日本橋の堀留ほりどめに日比谷平左衛門ひびやへいざえもんという人がいた。横浜のボテフリ——ボテフリっていうのは横浜の波止場で、船から積みだす軽い荷物をかごの中へ入れて担いでいく、今ではいませんが軽子人足かろこじんそくといった。それから、しまいには当時の金で五億円からの金をこしらえたという有名な働き手ですが、インドから綿花めんかを仕入れて、その船が上海シャンハイに停留してる時に船火事をおこして、綿花が全部焼けちゃった。その価格が約二億円ばかりに当たっていたという。昔の二億っていうから、今だったら天文学的数字です。そりやあもう、兜町かぶとでも株の相場が急に下落したくらいですから。

その時にね、私が感心したのは、この日比谷平左衛門という人の、何ともいえない心の、いわば力以上の光だな。六十五歳だぜ、その時。普通の人間だったら六十五になったら、もう大した希望も心に湧わいてこない年頃、老後の暮らしても考えていようって年頃なのに。

僕が、

「大変なことができましたなあ」と言ったところが、

「いやあ、こんなことは商売にはありがちですよ。また儲けもうさせてもらう大きな動機ができましたよ」って言うから、

「エーッ！ うけたまわれれば二億からの損害だそうぞ」

「いやあ、損害だと思つてませんよ。二億の元金をひとりでに神がこしらえてくれて、今度はその数倍がまた舞い戻つてくると思うと大きな楽しみだ」

私はね、自分で教えた人間にこんな偉い奴がいたのかなあつて、びつくりこいちゃつたよ。そうしたら果たせるかな、三年たたないうちにだね、その損害を全部取り戻しちやつて、なお金が五億ばかり残つてる。大した学問もない、ただポテフリから成り上がった人だが、そういうどえらいシヨックにあつてもびくともしないんだ。

ところがいまの事業家みてみる。わずかな不渡り受けても青菜あおなに塩みたいになり、少しぐらい損害を受けても、もうだめだつてなこと言つちまうんだ。だから、戦後しやうだおご承知のとおり、やたらに世の中の好景気にあおられて高度成長した奴がバタバタ将棋倒しで倒れちまうのは、欲の皮だけつっぱつて、ちつともその心に信念つていうものがないからなんだ。要するに、人間というものができていない。

どんなに事業方針が確立していようと、また経営方策が完備していようと、一番のトップ

に立っている人々のパーソナリティーに多少なりとも欠陥があったらどうなるだろうか。

健康、それから運命に対する扱いがしつかりできる人間でなかったら、会長だとか社長だとかといったところで、それぞれの名前だけにすぎない。それ以上のものは生まれてこない。それがために、「どこまでもまず人間をつくれ。それから後が経営であり、あるいはまた事業である」ということを私、しょっちゅう言ってるんです。

とにかく指導者にいちばん必要な、人間をつくる根本基礎となるべき、階級の高い哲学や科学が耳に入っていくようにも、あなた方が今までどんな教養を受けた人であろうと、人生に自分の知っている以上の大きな消息しようそくや事実があるということをご存じない人が実際に多いんです。

たいていな人間はね、理屈はいう議論はいうかなれど、人生をただ第二義的に考えて、その考え方も間違っていない、当然のように思っている。そうして、相変わらず、やれ金が幸福のもとだ、物質が幸福のもとだ、地位だ、名誉だなんて、ごらんなさい、このごろの大人たちが、そういうものを物にすれば幸福にも健康にもなるように思ってる。

だが、金持ちみんな幸福かいな。金や物質なんていうものは、仮相の存在で実相の存在じゃないんだから。

第二義的な人生は、どこまでいっても相対的なんです。多少の効果はあるとしても程度問題で、それ以上は出ていかないんです。

さつきも言ったとおり、人間を判断し理解する認識のピントがぼけて焦点が狂っていると、いくら努力しても、そうして幸い幸福になりそうな金ができて、地位ができて、真の幸福も健康も完全に得られませんよ。

*

あなた方は、生きてることは、死んでない以上はよくご承知になってます。どんなとぼけた奴でも、「いやあ、俺はひよいとすると死んでやしねえか」と思うなんて人はいない。

しかし、生きているという現実の中に、「生存」と「生活」の二つの部面があることに気がついてますか。

人間が人間らしく生きるには何をにおいてもまず第一に我々は「生命の生存」を確保する「生き方」を考えなければならないのです。その次に、「生命の生活」という「活かし方」を考える。

ところが、多くの人たちは生命生存の確保という大事なことをあまり留意しない傾向があ

るんです。なかには、てんから考えてもみないという人もいる。

生活に対する方法ばかり、どうすれば健全に生きられるだろう、食い物かしらん、薬かしらん、あるいは空気のいいところかしらん。つまり肉体本位に生活することばかりを、健康獲得への唯一の手段だと考えて、まあ何年むだな努力を繰り返したことでしよう。で、肝心かなめの生存の方面に対しては、生存しているからなにも研究する必要はないと思ってる。

なるほど、それは生存という方面に対して何らの理解がなくても、ある程度まで生きていけますよ、死なないかぎりは。けど、「死なないかぎりは生きていかれる」ということは、生きてる間は完全に健康で、しかも長生きができるということにはならない。どうやらこうやら生存しているという状態がただ続いているって、ある年限くると寿命も来ないので何かの病的刺激か、あるいはその他の事情でポコーンとこの世から姿を消しちゃうだけなんだ。

多くの人たちは生命が生存しているから、日にちの生活ができるんだという絶対の事実がちつとも気がつかないんです。

しかし、ここはひとつ考えてみてください。命があるから、言いかえれば、生命が生存しているからこそ生活ができるんでしょう。

そうである以上、命を完全に生かすこと、つまり生命の生存を確保することを何をおいて

もまず第一に考えなければいけないんですよ。これは議論じゃなくて、事実から気がつくはずなんですがなあ。

そこで、どうすれば生命の生存の確保ができるかというところ、心と体がうって一丸いちがんとされたものが生命である以上、心と体の両方をです、自然法則に絶対にそむかせないようにすることです。自然法則にそむかないようにするには一体どうすればいいかというと、第一に「心」の態度を終始一貫いかなる場合があろうとも積極的であらしめることです。積極的であらしめるということは、尊く、強く、正しく、清く生きることなんです。およそこのことぐらい人生および生命に対して大事なことはないのであります。

それから「体」のほうは、常に訓練的に積極化するというのを心がけなければいけません。つまり、秩序をおってだんだん慣れさせる。

以上が生命生存確保の大事な要諦ようていなのです。

その次に、生活せいかつに対してはいかなる条件が必要かというところ、心も肉にく体たいもその可能率を促進することを本意とすることなのであります。その方法として、「心」の方は使用するとき必ず精神を統一すること。それから、「体」の方は抵抗や耐久力というような生活に直接必要なものを力強くするために、これまた訓練的に積極化するというのを怠おろそってはいけない

のです。訓練的に積極化するというのは、「習うより慣れろ」という人間の生命に存在する自然性を応用したものです。あせらず、せかずだんだんに習慣性を応用して力強い肉体をつくることを常に実行していくことであります。

以上の心身統一法の根本条件を実行すると、心と体が期せずして結合統一され、その結果「生命要素」がぐんぐん増大して、健康はもちろん、運命の方面までも極めて良好に向上する。そして、すこぶる幸福な人生がそこにできてくるのであります。我々は本当に生きがいを感じられるのです。

「心身統一法」というひとつのドクトリン（教義）は、健康と運命とを完全にする生命要素というものをつくることを、そのプリンシプル（こんかん根幹）にしているのであります。

生命要素とは何かというと、平ったい言葉で申しあげると、健康や運命を両立的に完成するのに必要な「生命の力」であります。

私はこの力をあなた方のご理解の便宜上、六種類に分けていつも説明しています。

心身統一法によつてその内容をふやす力、第一が体力であります。第二が胆力。たんりよく第三が判断力。第四番目が断行力。第五番目が精力。第六番目が能力。この六つの力が生命の中に

その内容を豊富にしていけないかぎりには、どんなことをしても完全健康と完全運命を自分の人生のものにすることはできないのであります。

ですから、世界一のどんなにいい医者にかかろうと、比類のないいい薬を飲んでも、この力が少しでも欠乏していたら断然、健康などということは夢です。

現に有名な、ロックフェラーの前のアメリカ一番の金持ちといわれたカーネギーが、六十五歳で胃癌にかかりました。もつとも、今から約三十五、六年前の話です。全世界の医者に、カーネギーがこういう広告を出したんです。俺の胃癌を治してくれというような無理なことは言わない。五年生かしてくれたらば、俺の財産の半分——あれは、なぜ金をみんなやると言わなかったかなあ。どうせだめならば、景気良くみんなやると言っちゃまえばよかつたんだよ。その時分のカーネギーの金は、今のアメリカの財産の六倍あつたつていうんです。まあどうでもいいけど、そんなことは人の金だから——。

のどから手の出るほど金の欲しい医者どもはいたでしょうけれども、治せないから引き受ける者は一人もいなかった。お金の力でああいう設備、こういう養生法、こういうやり方ができるといふようなことをよく医者が言いますよ。それで、もしも病が治つたら、カーネギーなんていまだに死なずにいるだろうと思う。

違う違う。たとえ懐ふとこに一文もなくとも、これだけの六つの力が自分の生命のなかに内容量豊かになれば、人生はこれさながら天馬空てんばくうであります。それこそ、矢でも鉄砲でももつてこいというような気持ちで生きられる。

健康はもとより運命までも順風ほんふうに帆ほをあげたような毎日が味わえれば、心に不平もおこらないし煩悶はんもんもなく、大した度外どはずれな欲望もせず、ひにち毎日が何ともいえない明るい恵まれたものに、人がどう考えようと本人に感じられて生きられるのですから、本当の幸福というのは、これ何を言うめりめりと私は言いたい。

どんなに金の中から首を出しているように金があつても、健康がそれも自分の健康がよくつても、家族に病人があつたり、またなくつても病人が出やしないかと思うだけでも愉快な気持ちじゃないでしょう。

健康に対しても運命に対しても、いつ考えてみてもどこも悪いところがない、と感じた人生に生きた時、どんな楽しみがあるかは、今まで味わったことがない味わいですから、おわかりになりますまいけど。

私は断言します。信念をもつて断言します。生きる正しい方法を知って生きたら、まことに楽しい生きがいのある人生を送ることができるのであります。ですから、もっともつと人

生を楽しまなければもったいないですよ。生き方ひとつで楽園になるんだから。

さあそこで、簡単に結論にはいりますが、これは冗談事ではない、あなた方の人生問題ですよ。

ですから、この六つの力が自分に完全にあるかないかを、自問自答されたいのであります。あくまでも公平に、ですよ。

まず、我れに「体力」、本当に頼もしい状態であるかないか。

一番いい標準はね、男の人も女の人も、俺も八十歳越しても天風先生くらいの元気で生きられるかしら……やせ我慢^{がまん}じゃ駄目よ。あの野郎もあれだけの元気で生きてるから、俺も生きられるだろうなんてのはいけない、だろう。いわんやまして、やたらに風邪をひいたり、腹下^{はくた}したり、やれ頭が痛い、腰が痛い、のつていう人間は、八十どころか七十の声も聞かぬうちにペシャンコになつちまう。

この間、大阪でのんきなことを言う奴があつたよ。「私のうちは長生きの家筋でね。じいさんが八十二で死んで、ばあさんが八十。おやじが七十九で、おふくろがまた七十五なんだ。ですから、私もそこまで生きられると思う」と。まだ生きられないうちに、生きられると思

うって、のんきな奴もあるものだ。しかも、非常に神経過敏な状態の男なんです。

人生やせ我慢では解決つかない。とかく自分のことを考える時は身びいきがありますからね。「さあ、大して安心のできるほど丈夫さはないけれど、町内じゃ俺、強いほうだからな。風邪ひいたって年に三度ぐらいのものだから、別に大したことねえだろう」なんてことを考えているのは、大変ずさんな考え方です。本当に頼もしい体というのは、やたらとへんてこにならない体。あなた方の体は、やたらにへんてこになりやすい体じゃないか。

第二の「胆力」はどうだろう。

胆力っていうのは、なにも英雄豪傑ごうけつのような胆力をいうんじゃないですよ。人間としてもつべき普通の心の強さ。俺は神経過敏かしら、気がちっちゃいかしら。これが胆力あるかなしかである。心臓に毛が生えているかどうかじゃありませんからどうぞ。心臓の毛の方なら、私があなた方に教わらなければならぬ。毛はいくらあつてもだめ、正味強いものでないと。パイパンでもかまわないの、心臓は。

もう哀あわれなほど気の弱い人が、しかも、堂々たる男子のなかにさえある。一昨日おとといまで私、淡路島にいた。こんど新しく警察の署長さんになったのが天風会員で「阿波あわの鳴門なるとをご覧に
いれかたがた、洲本すもとの有志家にお話を」ってんで、行ったんです。その時に、土地の有力な

人が三人来まして、

「つかぬことを先生、うけたまわりたいんですが、近ぢか大地震があるそうですが、ありますでしょうか」って言うからね、

「そうねえ、地面の上にいる以上は大地震があらうよ。怖いの？」

「へえ」

「そう……、それじゃアドバルーンに乗ってたらいい」

「いえ、冗談じゃありません。本当にあるかないか聞いているんです」

「そりやあるよ、きつといつかは」

「いえ、四月の二十日だそうですね」

「ほう、そいつはどうも私は断言できないね。しかし、あつたらどうするつもり？」

「いや、それがおつかないんで聞いているんです」

「おつかないんで聞いて、あると言ったらどうするつもり？」

「それから先はまた先生に相談して……。どこへ行ったらいいか教わりたいと思って」

「あんた、失礼だがいくつ？」

「五十九であります」

「そのお隣は？」

「はっ、六十一であります」

「あなたは？」

「同じ年であります」

「何をなさつていらつしやるの」

「はい、一人は教育委員長で……」

「あなたは？」

「私は社会福祉のほうの仕事をしています」

「やめちまいなさい、そういうのみんな、あなた方で、まあ四月の二十日に無事か無事でないかわからないから、遠くへ行くか？ いまねジェット機で十二時間でアメリカへ行けるから、アメリカへ行つちまいなさい。日本がおつかなければ」

「いえー、先生は平気であるけれども、おつかなくないんですか？」

「天災地変を快こころよしと思う者がこの世の中にいるかい」

「じゃあ、先生もやつぱりおつかないでしょ」

「おつかないという言葉で表現はできないけども、うれしいとは思わないね」

「だから、地震が起こつたらどうします?」

「どうしますつて、起こつてみなきやわからないじゃねえか」

「潰つぶされると死にますよ」

「そりゃあ、潰されりゃ死ぬよ。しかし、潰されないかもしれないことも考えなきや。あなた方失礼ながら、三人そろつて私のところへ来たが、そんなふうだと毎晩おちおち寝ないんじゃ……」

「へいへい、そのとおり。寝ろつたつて、寝られませんよ、先生。いつだつてグラグラツとくるかわからない」

あなた方は笑つて聞いてるけど、なかには本当に気にしてる人がありやしないか。ひよつとするとあるかもしれない、この間『週刊読売』に書いてあつたなんて……『週刊読売』に書いてあれば、本当にあると思うんですか。あつたらあつたでいいじゃないか。地面の上にいる以上あるよ。絶対に動かない地面つてないもの、地球がしょっちゅう回つてるんですから。

人間というものは、死ぬ時は死ぬよ。何にもなくとも死ぬ時は死ぬんですから。それよりはもう少し気の利きいたことを考えたらどうだろうと思うけども、どうも気の利きいたことを考

えられない。ことほどさように神経というものが過敏になつちまうと、哀れ慘憺^{さんたん}たる状態になるらしいですなあ。

もう気の小さな人になると、今度は何かありやしないかしらん、普段と違ってネズミが天井でえらく騒ぎやがる……ネズミだってシーズンがくりや騒ぐよ。人間は生まれてから死ぬまでシーズンだ。どうも風がよけい吹くが、火事でもあつたらどうしようとか。

自分の心のなかにいろいろな幽霊を描^かいて、おっかながつておちおち夜も寝られないって人が随分あるのではないでしょうか。そういう人は、毎日がきわめて落ち着かない、おっかなびつくりの状態です。時間が繰り返されてるだけです。これじゃ長生きできませんよ。その方面からの影響で、神経生活機能がぐんぐんより悪い状態にされちまうんだ。これはまた、あとの話に出てきますが、神経生活機能のもつ役割というものをお話するとわかる。さて第三と第四、「判断力」、「断行力」はいかが。

判断力だけが入念でもいけないんですよ、断行力がこれに相呼^{あひ}応しないと。さりとて断行力ばかりいくらあつても、判断力が相呼^{あひ}応しないとやっぱりいけない。これは運命を築くうえにいちばん必要な要素であります。

自分のことは、自分がいちばん良くわかるから、自分一人で考えるんですよ。人と問答し

ちやいけません。「お前はどうか、判断力は」なんてことは言っちゃいけない。一人で胸に手をおいて考える。

第五番目の「精力」やいかに。

事かりそめならざる人倫の大本たいほんであるホルモン関係が、今の世の中の人は弱つていやしませんか。この節の人はませてるのか慌あわてるのか、もう五十歳ぐらいから「物の役に立たずなりにけり」という哀れな人がいるぜ、男でも女でも。そして、そういうことを何か非常に卑いひしいことのように思っている。「天風先生、八十越しながら助平すけへえや」なんていうふうに考えてる人が多いんですよ。助平で話をしてるんじゃないよ。人間、それが己おのれの心から消えたらば、自分の生命を焼場の扉のほうへ向けて生きてる人なんだ。かりそめならず、と云つたでしょう。これは、まさに人倫の大本だ。そんな難しい顔して私の顔を見なくてもよろしい。

あの気がなくなつたら、人生、生きがいありやなしや。月見ても、花見ても、雪見ても、昔の禅の悟りの歌に「達磨だるまさん、ちよいとこつち向け世の中は月雪花に酒に女だ」というのがあるじゃないですか。いい歌だ、私は大好きだ、ああいう歌が好きな先生なんだからたいはいあなた方と話が合うだろう。重箱のなかに石炭ガラ入れてかき回すよう

な四角四面しかくしめんなことは言わない、私は。

顔見ればすぐわかる、衰おとしろえている人は、男でも女でも。あの気が衰えたら——なにも、助平になれって奨励しょうれいしているんじゃないですよ。けれど、人生は死ぬまで色気のものなんだ。こう言うとなりの人なんか、「私なんか相手にする人がない」……なにも、相手を探さなくたって、その気をなくすなうって言うてるんです。

それから、いま一方の精力に、精神的な精力とというのがあつた。精神的精力が衰えると、克己こつき心と忍耐力が欠乏してくるのであります。克己心の弱つてくるのは、精神的精力の減退してゐる結果。忍耐力が欠乏すると、ものに根気こんきがなくなる。

老衰ちやうじゆうの兆候ちやうごうとして精神精力が減退すると、年をとつて気が短くなつたとか、ものを習うなんて気がしなくなつちやつたなんていうのは、みんな精力減退の証拠だ。いかがでしょう、あなた方は。

それから最後の「能力」。

世の中には、何をさせてもできないつて奴がいる。よく我慢して生きてると思ふんだけど。能力も精神的と肉体的と両方面ありますが、五輪ごりんご五体たいが全く備そなわつてゐる以上は、男は男のことができること、女は女のことができること、ことごとくできるに決まつてゐるのであります。手が一本

ないとか、目玉がひとつしかないとかいうのなら、人並みのことができない場合もある。

ところが、男でいながら男のことができることができず、女でいながら女のことができることができない人が随分いやしない？ それで、体を調べてみると、別にかたわでもなければ、形があるけれどもそこが動かないっていうんじゃない。もっとも、負け惜しみっていうのは人間にありますから、「何にもできなかつて、今に偉くなつたら秘書をおいて、それにさせる」つて言うけれども、偉くならないよ、そういうのは。

笑いながら、自分というものを厳かに検討してみてください。そして、「ああまだ足りない点が多い。縁あつて人間の世界に生まれてきた以上は、できるだけ強く長く、そうして広く深く、健康も運命も完全に生きなければ二度出てこられない世界だ」ところ気がついたらあしたからおいでなさい。

命が大事か大事でないか親類会議を開く必要も何にもないことですから、ご自身でお考えなさつて、本当に命が大事だと思うお方だけの集まりは、私、喜んでお導きしましょう。そういう人は、人生に対する本当に階級の高い理念が心のなかに閃きだした人なのでありますから。そして、人生という現実の世の中に生きる自分を、本当のリアリストとして生かさなければだめです。夢のような現うつのような、おとぎ話のような、自己欺瞞じこぎまんで人生を過ごしてし

まったのでは、二度繰り返すことのできないこの人生、もったいないです。

あっそうか、と気のついた時が新しいバースデイであります。

自己に新しい百八十度コンバージョン（転換）を与えるバースデイをつくるかつくらないかは、あなた方の自覚に待つのみであります。

